

令和 2 年度

事業所名 : あお空グループホーム釜石

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100047		
法人名	有限会社介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム釜石		
所在地	〒026-0302 釜石市片岸町2地割13-28		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和3年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

指示される前に自分から行動する姿勢を評価し、ミス責めることなく自主性を成長させていく方針で行っています。また、小規模多機能センターと同じスペースを共有し、沢山の方と過ごすことができます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、県内沿岸地区を中心にグループホームなどの地域密着型サービスを展開ながらし、地域の特徴を活かした事業所の主体的運営をバックアップしている。当事業所は、釜石北インターから3分位の高台の住宅地にあつて、小規模多機能ホーム、サービス付き高齢者住宅と一体的に運営されている1ユニットのグループホームである。震災以前からこの地で介護サービスの事業を行っているが、周辺の地域は、民家も少なくなり当時とは激変している。管理者は、市関係者と積極的に連携を図ろうとしており、生活保護担当や地域包括支援センターからは、当事業所や併設の小規模多機能ホーム、サービス付き高齢者住宅への入居等の相談を受け、処遇困難ケースの問題解決に向け一緒に取り組んでいる。また、事業所の力だけでなく、医療機関や家族などとの連携を深めながら看取りも行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和2年12月2日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関口に理念を掲示し外部の方にも可視化できるよう配慮し、日々実践に努めている。	法人の理念に加え、3年前に職員及び家族からのアンケート結果を基に、地域の実情や管理者の特性を活かした「あお空釜石理念」を「笑顔で楽しく」とした。事業所を訪れる家族等からは「明るい」「活発」との声がある。	作り上げた事業所の理念が、日々その人らしく暮らし続ける支援に反映されているかについて、職員間で話合う機会を持つことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭典に協力支援したり共同作業などにも参加し地域の方との交流を推進している	自治会に加入していないが、行政広報誌が届けられている。地域の共同アンテナのメンバーとなっており、施設をテレビ組合役員会の会場に提供している。コロナ禍前は花見会やクリスマス会の案内状を職員が直接地区の各世帯へ届けていた。今年の11月には、職員が震災後初めて行われた地域の沿岸掃除に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設自ら地域への発信活動はしていないが、相談に対しては、助言をし他のサービスが必要と感じた場合は照会もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告の中で質問や提言があれば改善するなど施設運営に取り組んでいる。	民生児童委員、老人クラブ、自治会、地域包括支援センター、家族代表、利用者代表をメンバーとして、事業内容、行事報告、ヒヤリハット事例等を議題に開催し、メンバーからは訪問診療や成年後見制度、日常生活自立支援事業などについて質問が多く出ている。現在は、コロナ禍のため開催を見合わせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や包括支援センターとの連絡会議に参加し連携を図っている	管理者は、積極的に連携を図ろうとしており、市主催のケア会議に参加したり、担当課に設置のボックスから、行政やケアマネ等の各種資料をいただきに足を運んでいる。当事業所や併設の小規模多機能ホーム、サービス付き高齢者住宅への入居等について、生活保護担当者や地域包括支援センターから相談があり、処遇困難ケースの問題解決に向け、一緒に取り組んでいる。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則身体拘束禁止の方針で現在も取り組んでいる。	ヒヤリハット・事故委員会に併せ、職員4人をメンバーとして身体拘束廃止委員会を開催している。身体拘束ゼロ作戦について内部研修を実施しており、身体拘束をしないことを共通認識とし、利用者への関り方を職員で検討している。居室ドアに鍵はなく、玄関の施錠は19時から翌朝6時としている。管理者から、原則身体拘束を行わないこととそのリスクについて、家族に説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	日々のカンファレンスの中で虐待行為に繋がらないように管理者から発信し、同僚同士の間でもけん制し合うように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は権利擁護制度を活用している利用者はいない為、事業所内での研修機会は行っていない。必要に応じて内部研修はできるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は元より電話相談や直接来所した際に利用内容と利用料金の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	遠方に在住している家族の増加に伴い施設の代行支援が多くなっており負担を感じているが、できる限りの支援をしている	一人の利用者に複数の職員が、同じ質問をして意向を聞いている。運営推進会議で利用者の発言は少ないが、通院時や居室担当を通じ、食べたい物や嗜好品などの要望が出ている。要望は管理者へ報告され、朝の申し送りで共有している。家族からの要望も、管理者に報告し、居室担当を通じて運営に反映するようにしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内にて不定期で運営会議を開催し会社に対して提案や要求もしている。	日々の意見や提案は、管理者や主任のどちらにも相談でき、更に、管理者は隔月開催の職員会議で、リーダークラスの職員から意見を聞いている。毎月開催のヒヤリハット委員会・栄養委員会、季節毎に開催するレク委員会、安全委員会からあった備品やドライブコースなどに関する意見、提案を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従業員の処遇改善や働きやすい環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得制度として費用の支給をしスキルアップの支援をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役職者は他事業所との交流に取り組んでいるが、現職員の取り組みはできないでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始後は多くの情報を取り入れるとともに、生活に慣れてもらえるよう声かけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネジャーや家族から情報を得るように努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを見極め生活に取り入れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話等で連絡を取り合い必要に応じて対応してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば職員、または家族の支援で行っている。	家族等の面会が継続できるよう支援しており、馴染みの床屋や近所の方の面会などで繋がりを持てるようにしている。地元のお祭りでは、知り合いの方を見つけて喜ばれる入居者もいるが、馴染みの場所については震災で激変してしまった。コロナ禍の前は利用者が懐かしむ道の駅や釜石大観音などヘッドライブをしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握し食事の席など工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所し在宅に切り替わった利用者に対してはその後の調査連絡はしている		

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を配置し個別に意向の把握に努めている。	令和元年4月から利用者に担当職員を配置し、買い物や外出、入浴などの関りを通じ、利用者の関心事を聴き出している。中には亡くなった後のことを具体的に話す方もいる。意思表示を出来ない方には、家族の意向や生活の中で見えてくるものから、居室担当職員が推測し判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から話を聞き把握に努めている。。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に担当職員が把握し職員全体への周知に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心にカンファレンスを開き課題分析をし職員全体で対応できるように努めているが、家族との意見交換が課題である。	管理者がアセスメントしケアプラン原案を担当者会議で検討し、本人・家族へ説明している。短期目標6ヵ月、長期目標1年とし、体調変化がある時はその都度見直している。管理者、担当職員、看護師によるモニタリングは毎月実施している。本人が意見を述べたり意思表示が出来ない方については、家族の意向をプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日生活状態の記録をとり、特記事項に関しては申し送りを通じ職員間で情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定概念に囚われて施設生活が苦痛にならないよう柔軟な発想に耳を傾けて運営を心掛けている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所一辺倒ではなく在宅環境が改善すれば、自宅での再生活も可能であるので常に両面での対応が可能になるよう考量している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向を聞き取り調整している	初回の面談で本人・家族が希望する医療機関を把握している。現在は新規入居者1名を除き、入居を契機にかかりつけ医を変更している。訪問診療5名、家族と通院2名、職員の通院支援2名となっている。看護師は、家族へメモや口頭で利用者の状態を伝え、家族からは受診結果の報告を受けている。協力医による訪問歯科も受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護と介護の共同作業で日々の健康管理を密に行い医療機関に適切につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は日常の生活状態や動作機能など入院生活に必要な情報を提供し退院時には施設生活にかかわる情報提供をしてもらう為、共通の様式を使用し共有して医療との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期から看取りまで本人や家族の希望に応じる体制を整え取り組んでいる。	訪問診療を開始する際にカンファレンスを行い、医師から治療方針を含めた重度化に際しての説明を本人・家族に行っている。重度化・終末期に進んだ場合には、医師から方向性の説明を行い、家族が看取りを選択する機会を数回設けている。今年の1名を含め、これまで5名の看取り経験がある。コロナ禍の看取りとなり、遠方の家族との面会にテレビ電話を取り入れている。	

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の状態を把握し予測できる患者には対応マニュアルを作成して置き混乱しないよう対処能力の向上を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練に民生委員の参加協力を得て実施している	火災想定での避難誘導訓練を独自に実施している。1次避難場所まで利用者1人3~5分、全員避難まで10分程度と把握している。カップめん等の非常食を3日以上、ランタン、カセットコンロなども常備し、避難先は近隣の特養となっている。事業所の災害対策に関する理解を得ながら、地域との協力体制を築くことが課題としている。	災害時の協力体制について、駆けつけることができる方々など、地域からの程度協力していただけるかについて、予め把握しておくことを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせて話をするなど利用者様を尊重するようつとめている。また、居室にはロールカーテンをつけプライバシーの確保を行っている。	利用者の職歴(調理師・漁師・教員・公務員・主婦)を把握し、話し方や方言などで馴れ合いにならないよう職員間で注意し合い、管理者も指導している。失禁時のトイレ誘導には「ちょっとお茶がこぼれているから」と言葉かけしている。居室のドアガラスには、ロールカーテンを設置している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向に沿ってその都度対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に規律はなく自由に着たい服やアクセサリをつけている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前後のテーブル拭きや箸の配膳などできることは行ってもらっている。	主食は本社からの冷食メニューから選択し、副食の買い物職員が行っている。利用者は、食材仕込み、下ごしらえ、テーブル拭き、エプロンたたみを行っている。季節にはワカメ、山菜、松茸の差し入れがあり、食卓にのぼる。年に2回位お弁当を取り寄せ、外出時にはソフトクリームを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食記録し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけや介助により口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し失禁前に声かけするよう努めている。	排泄チェック表を見て排泄支援をしており、失禁等有ればその後の対応を検討し修正している。トイレ以外で排泄する方がおり、何回か職員で話し合い、原因がトイレに間に合わないことと分かり、対応した結果トイレに行くようになった方もいる。失禁を認めない方には、声掛けを工夫し汚れた衣類を受け取っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動を促し、自力排便できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に合った支援をしている	気分や体調に合わせた本人の意向に沿った対応ができています。	毎日午前、1人週2回の入浴となっている。特浴もあるが、職員2人体制で主に木製個浴での入浴となっている。柚子と森の香りの2種類の入浴剤を使用し、季節の菖蒲湯もある。現在は入浴を嫌がる方はなく、入浴中は釜石音頭など音楽をかけたり世間話をしたりと、コミュニケーションの場になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホール、居室の移動は自由に行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に行っているが、新人職員も入り職員全員の周知はできていない。勉強会を行って対応していく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室担当が把握に努め対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策につき通院以外の外出はしていない	コロナ禍で通院以外は外出できないため、室内余暇活動を週5回14時から1時間程行っている。これまで、月2回買い物や予め日程を決めての外出をしていた。玄関先の掃除、庭先で日向ぼっこをしながらのおやつタイム、施設前の梅や桜の花見のほか、道の駅や観光名所へのドライブ、友人による外出を行っていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域の店に出かけて欲しいものが購入できるように同行支援をしたり代理で購入支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から家族に電話をかけたたり外部からの電話を繋いだりし交流を継続している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション時間を用いて季節感のある装飾品などを作り、展示している。	ホールは、グループホーム、小規模多機能ホーム、サービス付き高齢者住宅が共有出来る広々としたスペースとなっている。室内の空調は大型エアコンと加湿器、24時間換気装置で調整している。施設前の花畑の持ち主から提供された季節の花がテーブルに飾られ、壁には余暇活動での作品や保育園児の作品が飾られている。日当たりの良い窓側には、ソファが配置され誰でも座ることができる。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム釜石

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う利用者同士、席を配置し自由に話せるよう行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が持ち込みたいものを持ってきてもらっている	居室にエアコンがあり、ベッド、クローゼット、カーテン、手洗い場、ナースコール、テレビ端子が備え付けられ、テレビ、衣装ケース、椅子などが持ち込まれている。壁には余暇活動の作品や写真が飾られ、居室担当職員は、利用者の動ける力や思いに配慮して、居室内をコーディネートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等わかりやすいように張り紙などで対応している。		